

令和5年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	やや多	やや多
	褐斑病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	少	少
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類 (防除情報第12号)	やや多	やや多
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
たまねぎ	ネギアザミウマ	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並
	アザミウマ類	並	並
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	並	並
	コナガ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の () 内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(9筆)の結果、発病葉率は6.2%(0.3%)、発生圃場率は22.2%(15.2%)で、一部多発圃場が見られた。

2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(9筆)の結果、発病葉率は5.8%(2.8%)、発生圃場率は66.7%(36.8%)であった。

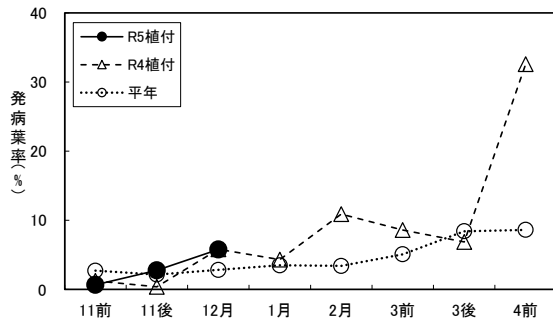


図 きゅうり うどんこ病 発病率の推移

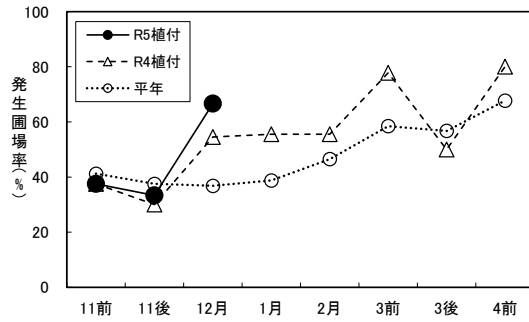


図 きゅうり うどんこ病 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P150～155の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発病率0.1%、発生圃場率1.1%）。

4. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（寄生率0.5%、発生圃場率8.5%）。

5. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生率は1.2%（0.5%）、発生圃場率は33.3%（18.5%）であった。

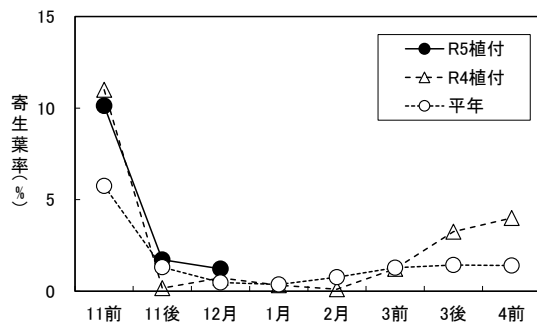


図 きゅうりのコナジラミ類 寄生率の推移

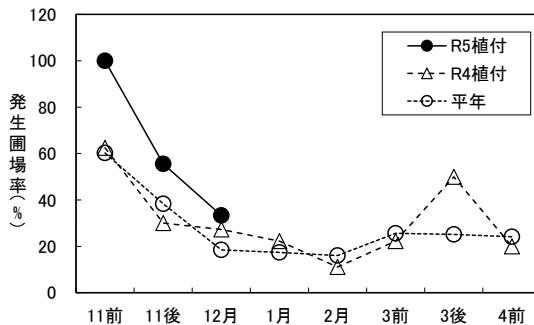


図 きゅうりのコナジラミ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。
- イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P156～159の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は33.3%（10.7%）であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 12月前期の巡回調査（9筆）の結果、果実での発生は認めなかった（過去10か年平均発病果率0.0%、同発生圃場率0.8%）であった。また、葉での発生も認めなかった（発病葉率0.0%、発生圃場率1.0%）。

イ 向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ない見込みであり、本病の発生に好適である。

3. コナジラミ類

令和5年12月15日付け**病害虫発生予察防除情報第12号**による。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.2%（0.1%）、発生圃場率は33.3%（15.1%）であった。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は0.3%（5.0%）、発生圃場率は6.3%（34.9%）であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（27筆）の結果、葉での発生を認めなかった（10か年平均発病株率0.0%、同発生圃場率0.4%）。また、果実での発生も認めなかった（発

生を認めない。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 12月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は7.4%(12.2%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ない見込みであり、本病の発生に好適である。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.4%(1.4%)、発生圃場率は14.8%(18.7%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生葉率は6.2%(8.4%)、発生圃場率は40.7%(45.9%)で、一部多発圃場が見られた。

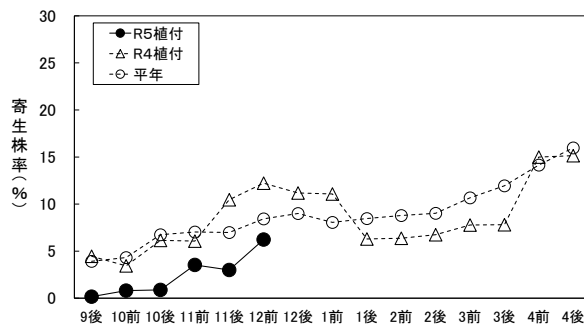


図 いちご ハダニ類 寄生株率

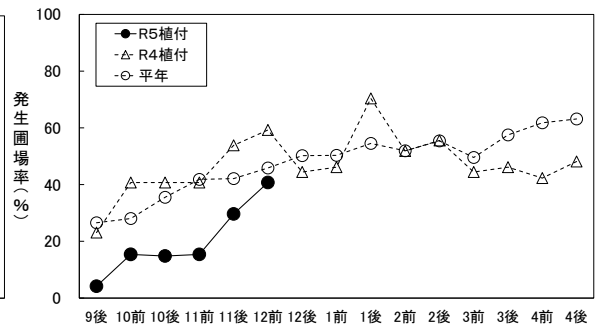


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和5年長崎県病害虫防除基準P214～217「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ 除去した茎葉は圃場内に放置せず、すみやかに処理し、圃場内の環境整備に努める。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生花率は0.9%(過去8か年平均0.6%)、発生圃場率は29.6%(同19.5%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.3%、発生圃場率9.4%)。

2. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均発病株率0.0%、発生圃場率1.7%)。

3. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.3%(5.4%)、発生圃場率は8.3%(45.1%)であった。

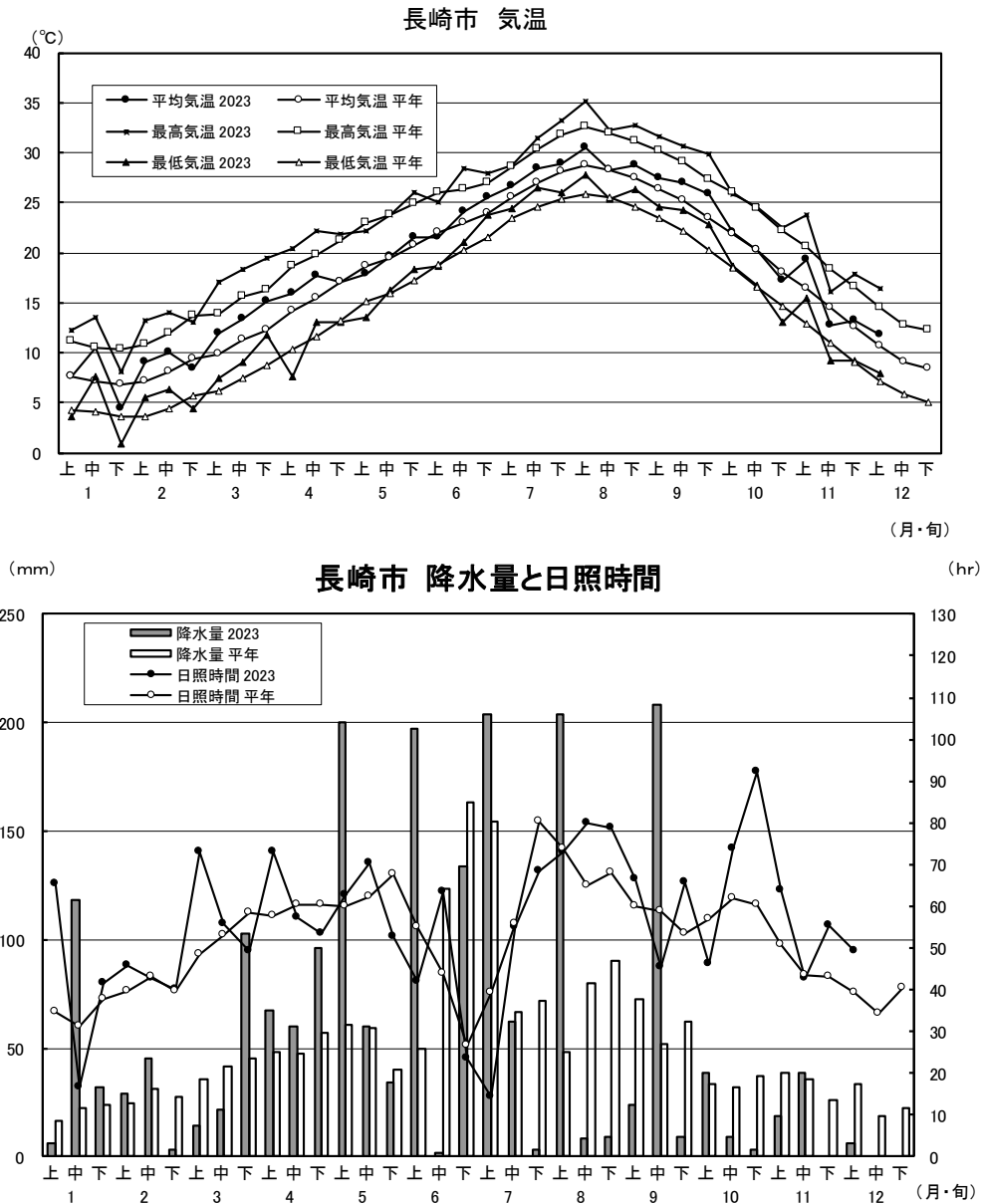
【参考】

(令和5年12月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和5年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

